



ウィリアム・ウィリス
 (1837-1894)
 英国の医師 明治二年
 (1869)薩摩藩に招
 かれ 医学校および赤倉
 病院を創設した

明治十年まで多くの医
 学生を育て また診療に
 つくした これが鹿児島
 大学医学部の発祥である
 西洋医学開講百年に当り
 医聖を偲ぶ (1968.4.21)

ウィリアム・ウィリス (1837-1894) 略歴

- 1837年 アイルランドのフェルマナー州、エニスキレン郊外に生まれる。
- 1859年 エジンバラ大学卒業、ミドルセックス病院医員(ロンドン)となる。
- 1861年 英国公使館付医員として来日。
- 1862年 生麦事件に遭遇、負傷者の介護にあたる。
- 1863年 生麦事件解決を要求して、イギリス代理公使ニール、軍艦7隻と共に鹿児島に向け横浜を出発、ウィリス乗船出征する。
薩英戦争。
- 1868年 鳥羽伏見の戦。
京都相国寺着、島津忠義、西郷隆盛らと対面、負傷者の治療を行う。
大総督府、戦傷士卒治療のため医官ウィリスを雇う、横浜軍陣病院に勤務。
東北戦争、北越軍に参加、負傷者の治療にあたる。
- 1869年 東京医学校兼大病院に勤務。
- 1870年 鹿児島医学校兼病院長として勤務。
- 1871年 江夏八重子と結婚。
- 1875年 帰英。
- 1876年 再来日。
- 1877年 西南戦争勃発、妻子同伴長崎、神戸、横浜を経由して東京に居住、のちに妻子を残して帰英。
- 1881年 来日、息子アルバートを同伴して帰英、兄ジョージと共にマンマスに開業、英国王立外科学会の会員になる。
- 1885年 シヤム国バンコック駐在の英国公使館医官となる。欧米人向け公衆病院及び私立病院をバンコックに建設する。
- 1892年 病気のためバンコックより英国に帰る。
- 1894年 死去。